



【取組内容】

- 商店街の空きビルをリノベーションし、**総菜店併設の保育園を作ることで子育て世代による商店街の往来が増え**、子育て世代が好むような店舗が空きテナントに出店するなどプラスの循環を醸成。
- 町内の美化活動を定期的実施し、**子どもたちの地域に対する愛着と住民の意識向上に貢献**。
- **地域住民との緊密な関係作り**や避難訓練の実施、栄養士・給食室職員が災害時の食事提供方法を学ぶこと等を通じて、**有事の際の備えや情報共有の仕組みを日頃から確認している**。
- 聴導犬とろうあ者を招いての対話の会、人工透析をしている職員によるヘルプカード認知向上のための勉強会、SDGsパネルを使っの読み聞かせ、環境にやさしい製品への切り替え等、**SDGsの認知・理解向上の取組を実施**。

SDGs実施指針における実施原則（本アワード評価基準）

普遍性：	就学前の園児でも取り組める活動は、他の世代でも取り組み易く、幅広い世代のロールモデルとなり得る。
包摂性：	管理職の男女比率がほぼ同数。365日開園。働く人や高齢者でも買いやすい健康的な食事の販売。地域交流スペースの活用等。
参画型：	老人福祉施設とのコラボレーション、一般市民への惣菜販売、イベントなどを通し様々な世代の人々との関わり等を強化。
統合性：	無料給水スポットの解放によるプラスチック削減の啓蒙を行いつつ、地域住民とのコミュニケーションの場作り等異なる課題を連動。
透明性と説明責任：	日々の活動を積極的にSNSや保護者向けのHPで写真付きで発信。定期的に社外での講演活動やアワードに応募し、客観的評価を確認。

